

令和2年度モデル企業

支援

令和2年度東京都
スポーツ推進モデル企業

株式会社CAC Holdings



社員自ら本気でボッチャを楽しみ、魅力を伝える

障害者スポーツ「ボッチャ」の普及・支援を、2016年より社会貢献活動としてグループを挙げて取り組んでいる。各地で開催されるボッチャの大会やイベントに社員がボランティアで赴くほか、時には体験会の企画運営から実施までを請け負う。アスリート社員と連れ立っての体験会では、技術指導やトークショーも実施。オンラインで実施することもある。

社員のボッチャサークルメンバーのうち、15名が日本ボッチャ協会公認資格「ボッチャサポーター」を取得。そのうち8名が同協会公認資格「JBOA登録審判員」を取得。協会からの要請を受けて公式審判員としてコートに立つ。日本選手権大会の審判に招聘される者もいる。



オリジナルツールでボッチャの楽しさと魅力を、より多くの方に伝える

ボッチャの的玉であるジャックボールとカラーボール間の距離を測定し、勝敗の判定を補助する画データを表示するAndroidアプリ「ボッチャジャー」を開発。無料配信している。また、ボール配置を真上から撮影するための移動型カメラ「ハイグルカメラ」を開発。これらのデジタルツールを主催するボッチャ大会会場で使用。観客に臨場感をもって観戦を見せながら、ボッチャの楽しさと魅力を伝える。



社屋1階常設のボッチャコートを一般に無料貸し出し

「ボッチャ」普及・支援の活動拠点として本社1階に設置したボッチャコートを、競技者やレクリエーションとして楽しむ方々に無料で開放。主要国際大会で採用されているスポーツ用床材を使用した公式サイズのコート周辺には多数のカメラを設置しており、「ボッチャジャー」や映像分析ソフトなどを組み合わせ、戦況や打球の様子などを大型スクリーンに投影することができ、アスリートのレベルアップに貢献するとともに、ボッチャの楽しさを伝えるために活用している。



企業情報はこちら



株式会社CAC Holdings



業種：情報・通信業 約4,000人

MEMO

令和3年度の取組内容

【実践部門】

- グループ各社の社員研修でボッチャを実施
- 社内ボッチャサークルにて定期的に練習会を開催
- インクルーシブボッチャ大会に会社チームで参戦
- オンラインフィットネスの実施

【支援部門】

- 1階常設ボッチャコートを一般に無料貸し出し
- 社員と所属アスリートがイベントおよび学校授業などでボッチャ体験の運営をサポート
- ボッチャの試合観戦を楽しく盛り上げるオリジナルツールを開発
- 社員がボッチャ審判員資格を取得してボッチャ大会で審判として活動
- 都内の特別支援学校を対象としたボッチャ大会を社員で企画・運営

企業データ

所在地 中央区

業種 情報・通信業

総従業員数 約5,000名

withコロナの取組

コロナも乗り越えて、ボッチャを楽しむ



社内ボッチャサークルの練習会では練習前の検温・手の消毒はもちろん、コートを除菌シートで消毒し、自動ドアを開放して換気にも気を使っている。練習中、打球チーム以外は打球ボックスから外に出る。作戦会議をする時はボール周辺に集まらず、大型スクリーンに映し出す映像を見ながら…など、ルールを超えた対策を実施。ナイスショットのハイタッチもエアーでしている。

リアルイベントができずとも、創意工夫でボッチャの魅力を伝え続ける

コロナ禍でアスリート社員が体験会場に向かえない時はオンライン会議で参加し、ボッチャの魅力を伝える活動を継続的に実施。

また、オンライン会議用のバーチャル背景の提供や、練習会の様子を動画で流すなどFacebookなどのSNSを使ったボッチャの普及・支援活動を行っている。



その他の取組

一人でも多くの人にボッチャを楽しんでもらうために、用具購入がハードルとなっている非営利団体・法人へ向けて、ボッチャ用具を寄贈するプロジェクトを毎年実施。要望に応じて講習会も行っている。

また、都内の特別支援学校の生徒を招き、グループ社員自らの企画・運営による、当社主催のボッチャ大会（CACカップ）を毎年開催している。ボッチャ観戦を楽しくするオリジナルツールの導入や、社員のアイディアによる様々な演出も盛り込んで実施し、選手だけでなく観戦者にも一緒にボッチャを楽しんでもらっている。



STAFF'S VOICE

CACグループは、主に企業のお客様を対象として、IT&ヘルスケアサービスを国内外で展開している企業グループです。50周年を迎えた2016年より、社会の皆様に感謝の気持ちを伝える一つの形として、障害者スポーツであるボッチャの普及・支援活動をグループを挙げて開始しました。誰もが一緒になつてすぐに競技を楽しむことができるボッチャは、ダイバーシティやインクルージョンの必要性がますます高まるこれからの時代にふさわしいスポーツであり、これからも普及活動に取り組んでいきたいと思っています。



東京都スポーツ推進大使
ゆりーと



※モデル企業の画像は、「事例集」発行年度当時のものです。

◆取組を始めたきっかけ

- 創業50年にあたり、社会の皆さまへ感謝の気持ちをお伝えするひとつのかたちとして、新たな社会貢献活動を始めことにしました。活動の選定にあたっては、グループ社員が積極的に参加できることを前提に検討し、当時まだ支援の手が足りていなかった障害者スポーツ「ボッチャ」の普及・支援を決めました。2016年から日本ボッチャ協会のゴールドパートナーとなり（現在はゴールドトップパートナー）、社内外を問わず、ボッチャの普及・支援活動を行っています。

◆運用上の特徴や工夫

- ボッチャ体験会のサポートや、用具の寄贈などを通じて普及活動を進めるほか、CACグループに所属する社員数名が、日本ボッチャ協会公認審判員の資格を取り、各地の大会で審判として活躍するなどしています。
ITを活用したツールの開発にも取り組み、ボッチャボール間の距離を測定する「ボッチャメジャー」はAndroidアプリとして無料配信をしています。
都内の特別支援学校を対象に開催している「CACカップ 学生ボッチャ交流戦」は、社員の手で作り上げることを大切にすると同時に、学生たちのよい思い出となるよう、様々な演出や工夫をこらしており、学生たちの目標のひとつとして捉えてもらえる大会に成長しました。
また、ボッチャアスリートを社員として採用しているほか、本社工屋内に公式サイズのボッチャコートを設置し、社内のイベントで使用したり、無料で一般に貸し出したりしています。

◆効果やメリット

- ボッチャ体験会を社内の新人研修や全社員研修に取り入れています。初対面の社員同士のアイスブレイクになったり、普段顔を合わせない社員同士をいち早く知る機会になったりしています。グループ社員自ら企画・運営するボッチャ大会「CACカップ」では、所属部署を超えた社員の交流や一体感、達成感を得ることができます。ボッチャ体験会にボランティア参加することで障害者スポーツを実際に体感し、障害者スポーツや障害者に対する理解を得る一助にもなっています。